

④三陸復興国立公園内ビジターセンターの利用促進策の提案 —災害文化の伝承による減災に向けて—

○佐々木啓, 比屋根哲 (岩手大学) E-mail: g0118018@iwate-u.ac.jp

はじめに

背景

- 自然災害の頻発する日本では
自然災害の経験や教訓から得た知識である災害文化は被災地住民だけでなく、すべての来訪者にとって非常に価値ある情報である
- 東日本大震災から8年が経過
災害伝承施設利用者の減少 (岩手日報社2019)
語り部ガイド利用者の減少 (時事通信社2018)
→ダークツーリズム, 復興ツーリズムを通じた伝承には継続上の課題がある
→復興など被災地の変化を考慮した災害伝承方法の検討が必要 (佐々木ら2018)
→防災意識を高め, 災害被害を低減するために従来とは異なるアプローチによる災害文化の伝承策も求められている

- 自然とのふれあいや自然環境への関心も
防災意識の向上に寄与する (三好ら2013)
そこで
↓
保護地域のビジターセンター (VC) に注目
VCとは…
・自然と人文 (災害文化を含む) の展示→関心向上
・自然とのふれあい体験の支援と誘導を実施
ところが
↓
■国立公園の来訪者数に対する, 日本の国立公園のビジターセンター利用率は0.3-52.9% (平均約2%) →利用者数が少ない
→利用率向上により災害文化伝承の役割を強化できる
→そのためにどんな課題を解決しなければならないか?

目的

- VCの利用率を向上し, 災害文化伝承の役割を強化するために解決しなければならない課題について明らかにすること

研究方法

研究対象地

- 災害常襲地かつ保護地域→三陸復興国立公園のVCに設定
- 三陸復興国立公園内VC 7施設
所在地: 種差海岸, 北山崎, 浄土ヶ浜, 碓石海岸, 唐桑半島, 南三陸, 石巻
→VC利用率は19.1%で国内2位の利用率の高さ
 - 環境省東北地方環境事務所国立公園課
 - 環境省自然保護官事務所 (八戸, 宮古, 大船渡)

調査方法

- 調査期間: 2019年1月-6月
- ヒヤリング調査: 施設の運営課題, 災害文化の発信に対する施設の考え
- VC現地調査: 展示内容

結果と考察

各VCの展示内容—展示面積に注目して

種差海岸	自然が半分程度 (花, 里, 山, 草原, 海岸, 沖合, 磯, 砂浜など) その他: 文人, 周辺観光, 三陸復興国立公園, みちのく潮風トレイル
北山崎	生きものが半分程度 (鳥, 花, 貝など) その他: みちのく潮風トレイル, 北山崎の成り立ち
浄土ヶ浜	幅広く情報提供 (公園案内や周辺観光, 地形, 特産物, 歳時記, 海の恵みと脅威, みちのく潮風トレイル, 生きものなど)
碓石海岸	公園案内が大半 (碓石海岸の案内図や見どころなど) その他: 震災前後の景観変化 (企画展), 浜辺の植物, リアス海岸の紹介
唐桑半島	災害文化が大半 (津波災害など), 津波体験館が併設 その他: 動植物, 地形, 宮城オムレ, みちのく潮風トレイル
南三陸	生きものが大半 (サケ生, カメ生など) その他: みちのく潮風トレイル (南三陸地域) やマガキの養殖など
石巻	生きものがほとんど (ヨシ, 川にすむ魚など) その他: 日本の国立公園, トイレの環境影響

6館で特定のジャンルの展示が展示面積の半分以上を占める

災害文化に関する展示は3館でのみ実施 (常設展は2館)

災害文化の発信に関する施設の考え (宮古以南, 災害文化常設展×施設)

- 企画展という形では実施したが, 常設としては困難。
災害文化について知りたい利用者には伝承施設を勧める (碓石海岸)
- 発信していくつもりはない。イベントの中で自然の脅威について伝えることはある
伝承施設に任せる (南三陸, 石巻)

甚大な被害を受けた地域の施設であっても
災害文化を発信する意向は小さい

- 課題:
- 予算の不足 (5館; 潮風トレイル対応による職員の不足など)
 - 利用者の減少 (2館; リピーター減少, 三陸道開通)
 - インバウンド対応 (北山崎: 多言語, トイレ)
 - 滞在時間の短さ (石巻: トイレだけ利用)
 - 施設の老朽化 (唐桑半島: 築35年)



展示テーマの偏りをなくすこと

展示面積の半分程度が特定の展示

- 利用者に伝えるべき情報 (地名の由来, 人々の暮らしと文化といった人文や自然の脅威, 公園利用のための情報等) が不足していると思われる施設が多い
→施設理念も大切ではあるが,

利用者のニーズにあわせた展示であることは不可欠

ニーズの把握については

今後の課題としたい

三陸復興国立公園キャッチコピー (環境省2013) 自然の恵みと脅威・人々の暮らしと文化	VCの基本機能 (環境省2019) ①案内・情報提供 ②自然及び人文の解説 ③自然とのふれあい体験の支援・誘導 ④休憩場所提供 ⑤便益 (トイレ, 物販など)
---	--

不足している運営予算の改善

- 職員が不足, 老朽化した施設を改装できない, 新しい展示に更新できない, 多言語化などのインバウンド対応ができない…
といった課題→行政などのさらなる支援が必要